2026 年５月 13 日

各　　位

会 社 名 ：　シンデン・ハイテックス株式会社
代表者名：　代表取締役社長　鈴木　　淳
（コード番号：3131）
問合せ先：　常務取締役（管理本部管掌）　田村　　祥
（フリーコール：0800-5000-345）

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取組み
【アップデート版】

当社は、2026 年５月 13 日に公表した第三次中期経営計画（2027 年３月期～2029 年３月期）第６章「資本コストや株価を意識した経営」につきまして、その考え方および取組内容の詳細を整理し、下記のとおりお知らせいたします。

記

１．本資料の位置づけ
　本資料は、第三次中期経営計画 第６章「資本コストや株価を意識した経営」に関する補足・詳細説明資料であります。

２．本資料における主な記載内容
- 資本コストおよび資本収益性に関する考え方
- ＲＯＥ等の指標を用いた資本効率のモニタリング
- 株価指標（ＰＢＲ等）を踏まえた市場評価への対応
- 資本効率向上に向けた具体的取組みおよび進捗管理

以　上

（注）本資料に記載されている将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因により記載内容と異なる結果となる可能性があります。

SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

東証スタンダード：3131

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について【アップデート版】

2026年5月13日

はじめに

SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

代表取締役社長
鈴木　淳
すずき　あつし

当社グループは、2026年5月13日に公表した、第三次中期経営計画　第6章に基づき、「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」について、本資料（アップデート版）においてその詳細をご説明します。

当社グループは、持続的な成長を実現するための重要な手段として、資本コストを意識した経営を一層強化します。
ROE等の指標のモニタリングと改善で資本効率を磨き上げ、企業価値向上策を実行します。

また、定期的なレビューの結果は速やかにIRへ反映し、透明で一貫した価値創造ストーリーを発信します。

■ 本資料で示す基本的な取組みの方向性

- 株主資本コストを上回るリターン（ROE）の創出　（中期経営目標と連動）
- デジタル化の推進をもってデータに基づく定量的モニタリング強化（中期経営基盤戦略のデジタル化推進と連動）
- 株価指標（PBR、PER等）を業界平均と比較し、企業価値向上施策を実行する
- 定期的な進捗管理を行い、IR活動に反映する

Copyright（C） SHINDEN HIGHTEX, Corp.　All Rights Reserved.

1. 資本コスト経営

Copyright（C） SHINDEN HIGHTEX, Corp. All Rights Reserved.

1-1. 資金運営の考え方（回転効率重視）

SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

当社のビジネスモデルを踏まえた場合、一般的なキャッシュアロケーション（資金配分）の最適化ではなく、運転資金の回転効率を高めることが資本効率向上に直結すると考えています。

事業特性と資金需要

当社は、エレクトロニクス商社として在庫および売上債権を伴う事業構造となります。
つまり、**運転資金を通じて成長機会を取り込むビジネスモデル**となっています。

資本コスト経営との関係

資金をどう配るか（配分）よりも、
資金の「回転効率」を高めることが資本効率向上に直結すると考えています。

具体的な取組み

・在庫回転日数・売上債権回収期間・仕入債務支払期間の総合管理
　→ **CCC**（キャッシュ・コンバージョン・サイクル）による**定量的モニタリング**
・ 事業環境に応じた機動的な資金調達・返済の最適化

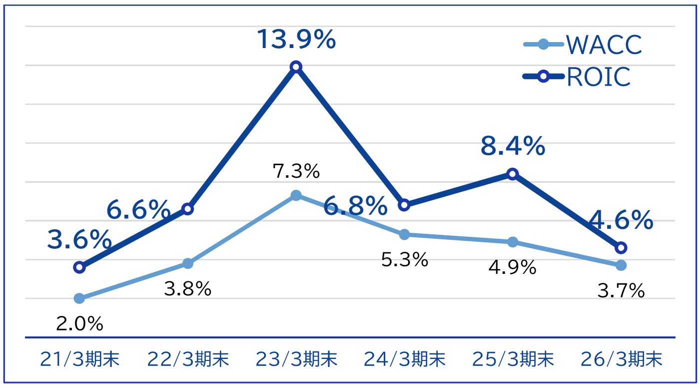
今後のスタンス

資本コストを意識した持続的な企業価値向上を目指し、
資本効率の改善を通じて、その成果を株式市場評価へ着実に反映させていきます。

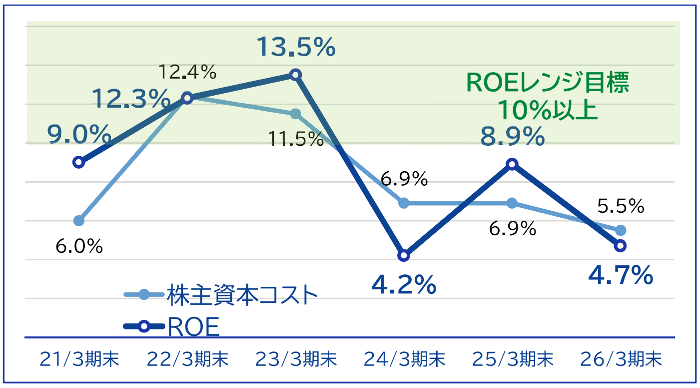
Copyright（C） SHINDEN HIGHTEX, Corp. All Rights Reserved.

1-2. 資本収益性(目標と現状分析)

① ROICと資本コスト(WACC)の推移



② ROEと株主資本コストの推移



目標

① ROIC＝資本コスト(WACC)を上回るリターンを確保する。
② ROE ＝ 株主資本コストを上回るリターン、かつ10%以上。

現状分析と評価

①(目標:ROIC＞WACC):【達成】
各年度においてROICがWACCを上回って推移しており、資本コストを上回るリターンを確保できている。

②(目標:ROE＞株主資本コスト かつ ROE10%以上):【未達】
26/3期末のROEは4.7%と、株主資本コスト5.5%およびROEレンジ目標10%以上を下回り未達。
未達の主因は、収益性の低下(当期純利益率0.8%)と資産効率の低下(資産回転率1.9回)に加え、CCCの長期化(92.8日:在庫回転46.1日･売上債権回収71.2日)が資本効率を押し下げたため。

全体評価/今後の展望
資本収益性(ROIC)は資本コスト超を維持できている一方、ROEは収益性･回転効率の影響を強く受け未達。
今後はCCCによる運転資金の定量管理を軸に、在庫管理の最適化･資金調達の効率化を進めつつ、高付加価値商品の拡販/新規顧客開拓/新規ビジネス参入等を通じて、ROEを株主資本コスト超かつ10%以上へ回復させる。
併せて、短期的な指標改善を目的とした効率追求ではなく、需要を伴う成長と資本効率の両立を前提とした改善を進める。

Copyright (C) SHINDEN HIGHTEX, Corp. All Rights Reserved.

1-3. 目標達成への対応(ROE10%～)

中期経営計画(第5章抜粋)

株主資本コストを上回るリターン(ROE)の創出。

ROE ＝ **当期純利益率(向上)** × **資産回転率(向上)** × **財務レバレッジ(緩やかに最適化)**

ROE目標 10%以上 ＝

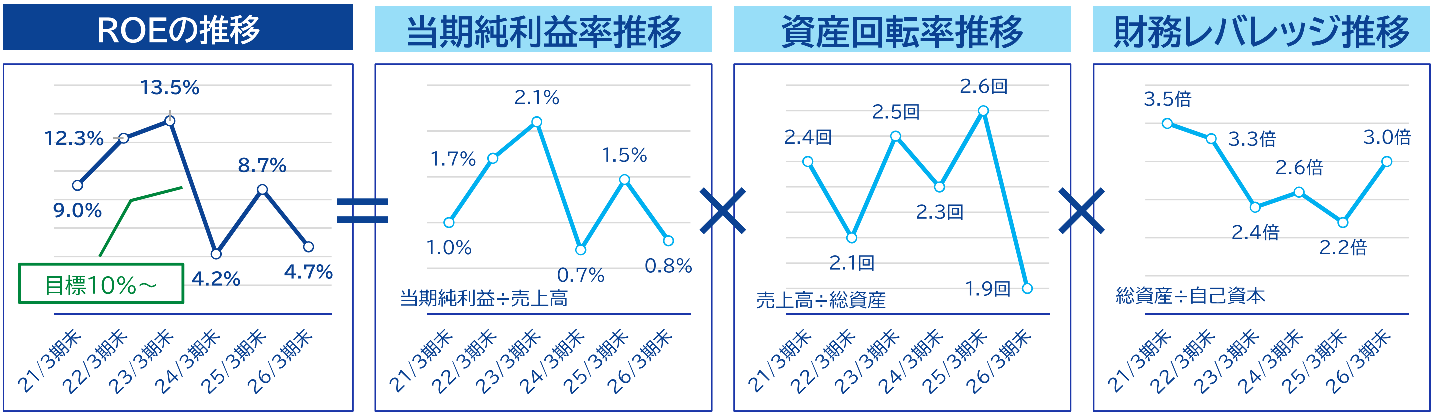
当期純利益率	資産回転率	財務レバレッジ
当期純利益 ･高付加価値商品の拡販 ･新規顧客開拓の推進 ･営業外費用の圧縮 ＝借入依存度の最適化 ＝為替差損益の影響減	**売上高** ･新規顧客開拓の推進 ･新規ビジネスへの参入 ･高付加価値商品の拡販 ･環境配慮商品の拡販	**総資産** ･在庫管理の最適化 ･CCCによる進捗管理 ･資金調達の効率化
÷	÷	÷
売上高 ･新規顧客開拓の推進 ･新規ビジネスへの参入 ･高付加価値商品の拡販 ･環境配慮商品の拡販	**総資産** ･在庫管理の最適化 ･CCCによる進捗管理 ･資金調達の効率化	**自己資本** 財務の健全性を維持できる範囲で株主還元強化 ･安定的な配当 ･機動的自己株式取得

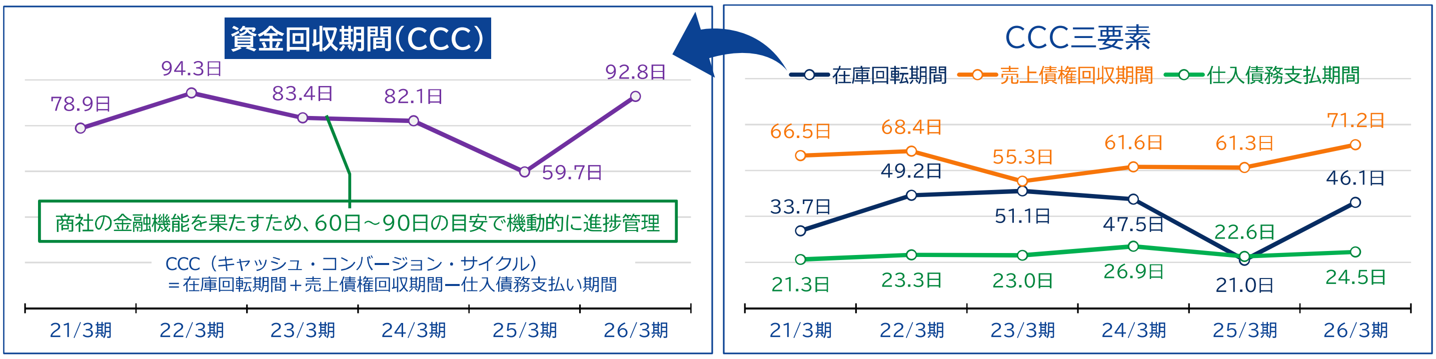
Copyright (C) SHINDEN HIGHTEX, Corp. All Rights Reserved.

1-4. ROE分解及び資金回収期間推移

SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

収益環境の悪化に加え、調達環境への対応および次期ビジネスに向けた在庫高の増加により、
ROE・資金効率は一時的に低下。





Copyright（C） SHINDEN HIGHTEX, Corp. All Rights Reserved.

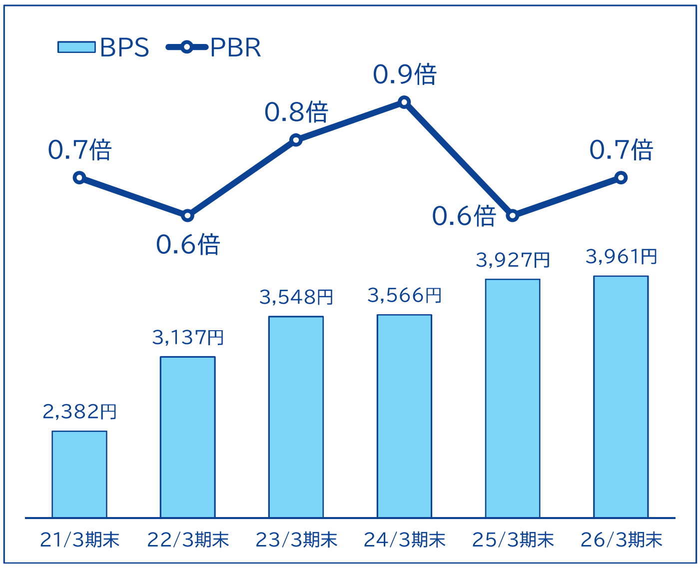
2. 株価を意識した経営（PBR1倍に向けて）

Copyright（C） SHINDEN HIGHTEX, Corp. All Rights Reserved.

2-1. 株式市場の評価

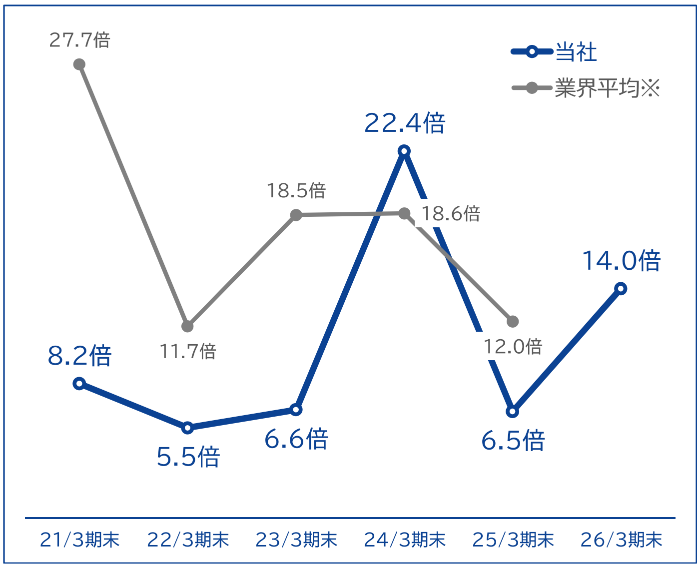
SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

PBR(株価純資産倍率)の推移



BPSは着実に積み上がっています。
一方で、PBRは0.6～0.9倍で推移しております。
これは、資本効率や成長性の訴求が十分に株価評価へ結び付いていない状況と受け止めています。

PER(株価収益率)の推移



足元のPER上昇は、収益性低下に伴う分母の減少による側面が大きいと認識しています。
一方で、株価が大きく調整していない点については、当社の事業継続性や中長期での収益回復余地について、市場が一定の前提を維持している結果と受け止めています。

※業界平均は、上場している主要なエレクトロニクス商社の2025年/3月期までの決算数値及び期末時点株価を当社にて集計した参考値です。

Copyright（C） SHINDEN HIGHTEX, Corp. All Rights Reserved.

2-2. 株式市場評価に対する当社の認識と論点

SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

当社の認識

・当社は、株式市場からの評価について、**資本効率や成長性の伝え方に改善余地があると**認識しています。
・特に、事業特性や資金の使われ方が、必ずしも十分に理解されていない可能性があると考えています。

論点の整理

・当社は、電子部品商社として運転資金を通じて成長機会を取り込むビジネスモデルであり、**在庫・売上債権の増減が資産規模に表れやすい特性があります。**
・このため、**資本効率の改善状況や取組みの意図が、株式市場評価に直ちに反映されにくい構造があると**捉えています。

基本的な考え方

こうした特性を踏まえ、資本効率の向上と成長性の伝達の両面、そして次の2-3.項に記載の取組みを通じて、株式市場との認識ギャップの解消に取組みます。

Copyright（C） SHINDEN HIGHTEX, Corp. All Rights Reserved.

2-3. PBR 1倍に向けた対応

PBR ＝ **ROE**（資本収益性の向上） × **PER**（期待成長率の向上）

ROE ＝ 当期純利益 ÷ 自己資本

当期純利益
- ・高付加価値商品の拡販
- ・新規顧客開拓の推進
- ・営業外費用の圧縮
  - ＝借入依存度の最適化
  - ＝為替差損益の影響減

自己資本

財務の健全性を維持できる範囲で株主還元を強化
- ・安定的な配当
- ・機動的自己株式取得

PER ＝ 株価 ÷ 1株あたり当期純利益

株価
- ・成長戦略の打ち出し
- ・人的資本戦略等の成長投資
- ・認知度向上のための各種IR施策

▼

株式市場評価（期待値）の向上

1株あたり当期純利益
- ・高付加価値商品の拡販
- ・新規顧客開拓の推進
- ・営業外費用の圧縮
  - ＝借入依存度の最適化
  - ＝為替差損益の影響減

目標 ＝ 1倍以上

Copyright（C） SHINDEN HIGHTEX, Corp. All Rights Reserved.

本資料お取扱上のご注意

本資料は、シンデン・ハイテックス株式会社（以下、当社）の事業及び業界動向に加えて、当社による現在の予定、推定、見込みまたは予想に基づいた将来の展望や目標についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確実性がつきまとっています。

すでに知られたもしくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。

本資料における将来の展望に関する表明は、**2026年5月13日現在**において、利用可能な情報に基づいて、当社によりなされたものであり、将来の展望に対する表明、予想、目標に関しては、必ずしも実現することをお約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもあり得ますことをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ

シンデン・ハイテックス株式会社
経営企画室

ﾌﾘｰｺｰﾙ：0800-5000-345

Copyright（C） SHINDEN HIGHTEX, Corp. All Rights Reserved.